

STビジネス標準の運用と認証制度取組について

2023年7月20日(木) 観光検討会説明資料

持続可能な観光のビジネス標準の取組の基本的考え方

持続可能な観光に関連するST(Sustainable Tourism)ビジネス標準提案を報告した。次の段階としてST報告書(ホワイトペーパー)ビジネス標準の観光事業での運用を提案する。

- ①現在、地域や観光事業者のSDGsの取組は様々な取組で持続可能な観光を目指して実施されている。しかし、この取組成果は統一的な共通の評価対象としていないため、比較評価が困難である。このため達成した評価を共有して利用することができない状況にある。
- ②当計画ではビジネス標準の取組並びに共通化した達成度成果利用によりSDGs取組が地域や事業者間及び旅行者が何時でも利用でき、共通の評価から取組状況の確認を可能にする取組を目指している。
この目的は持続可能な観光への達成度情報利用者である地域や観光事業者がビジネス標準の取組達成度情報をベースに相互利用が可能することで観光事業者や旅行者が何時いつでもどこでも客観的なSDGs達成状況の利用・活用して国連のSDGs2030アジェンダを達成するための手法の提案である。
- ③持続可能な観光の取組情報を客観的に利用することで、様々な地域の観光事業者・旅行者が持続可能な観光での共通したSDGs達成情報の様々な利活用を目指している。

1. 観光産業がSDGs取組の現状取組とST取組・課題の把握

現状の持続可能な観光に向けたSDGs取組の現状を調査し、共通した取組などの達成度の確認を以下の重点事項について調査・検討して実運用と整合させる。

- (1) 観光地域でのST取組の利用形態を把握する。
- (2) 文化・自然資源の環境保護
- (3) 観光産業の地域における社会的・経済的現状との関わり
- (4) 観光と旅行の活動が及ぼす自然環境、文化遺産の保護と地域社会でのビジネス標準の取組と評価の状況。
- (5) 観光地域の気候変動対策と取組状況。
- (6) ST取組の情報の取組と活用の地域での状況。

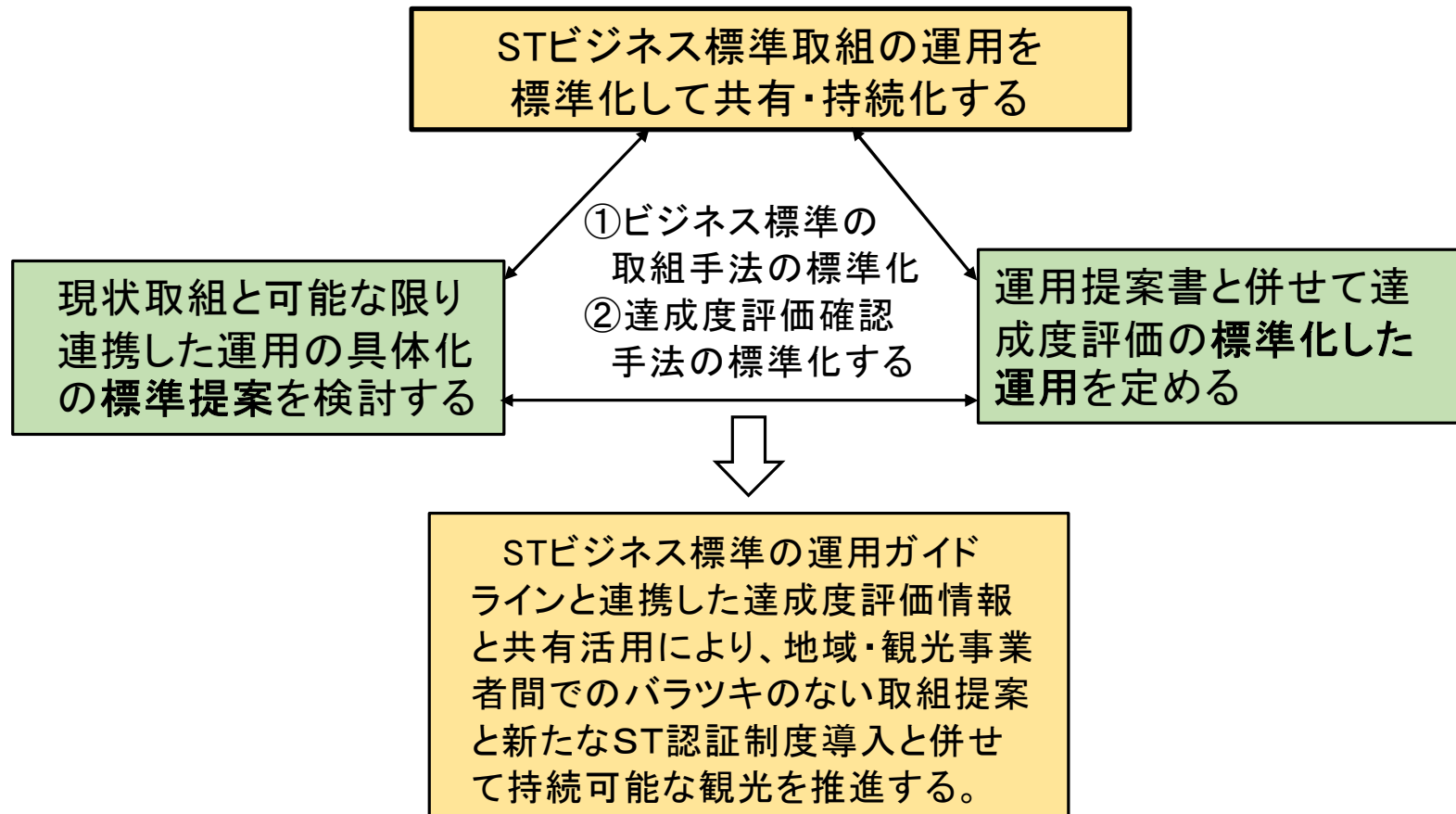
2. 観光産業業界で今日まで様々な取組等との整合を図る。

- (1) エコツーリズムやサステナブルの推進
- (2) 地元の人々と協力して観光事業を行なうコミュニティツーリズムの推進
- (3) 地域社会に貢献する地域連携の活動を展開する
- (4) 再生エネルギーを活用する
- (5) プラスチックや廃棄物を削減する
- (6) 海洋汚染や環境・景観の保全に取り組む
- (7) オーバーツーリズム対策や地域観光の社会的な保全に取り組む

3. 既存の持続可能な観光への取組と共有化と共存してSDGsを推進する。

- (1) 観光需要の増加による地域環境への負担改善に取り組んでいるケースと連携などを考慮する。(例えば地域の道路交通事情、収容施設などの積極的な解消に取り組むなど)。
- (2) 観光客、事業者、地域社会が共にSDGs取組・向上と関心が高まっている。
- (3) 既存の認証制度<事例:グリーングローブ認証、エコツーリズム認証、バイオツーリズム認証、LEED(Leadership in Energy and Environmental Design)、フェアトレード観光認証等>の様々な認証制度とST認証制度の共存を図る。

4. STビジネス標準取組の標準化と共有化を検討する



5. STビジネス標準とST認証制度導入の検討事項

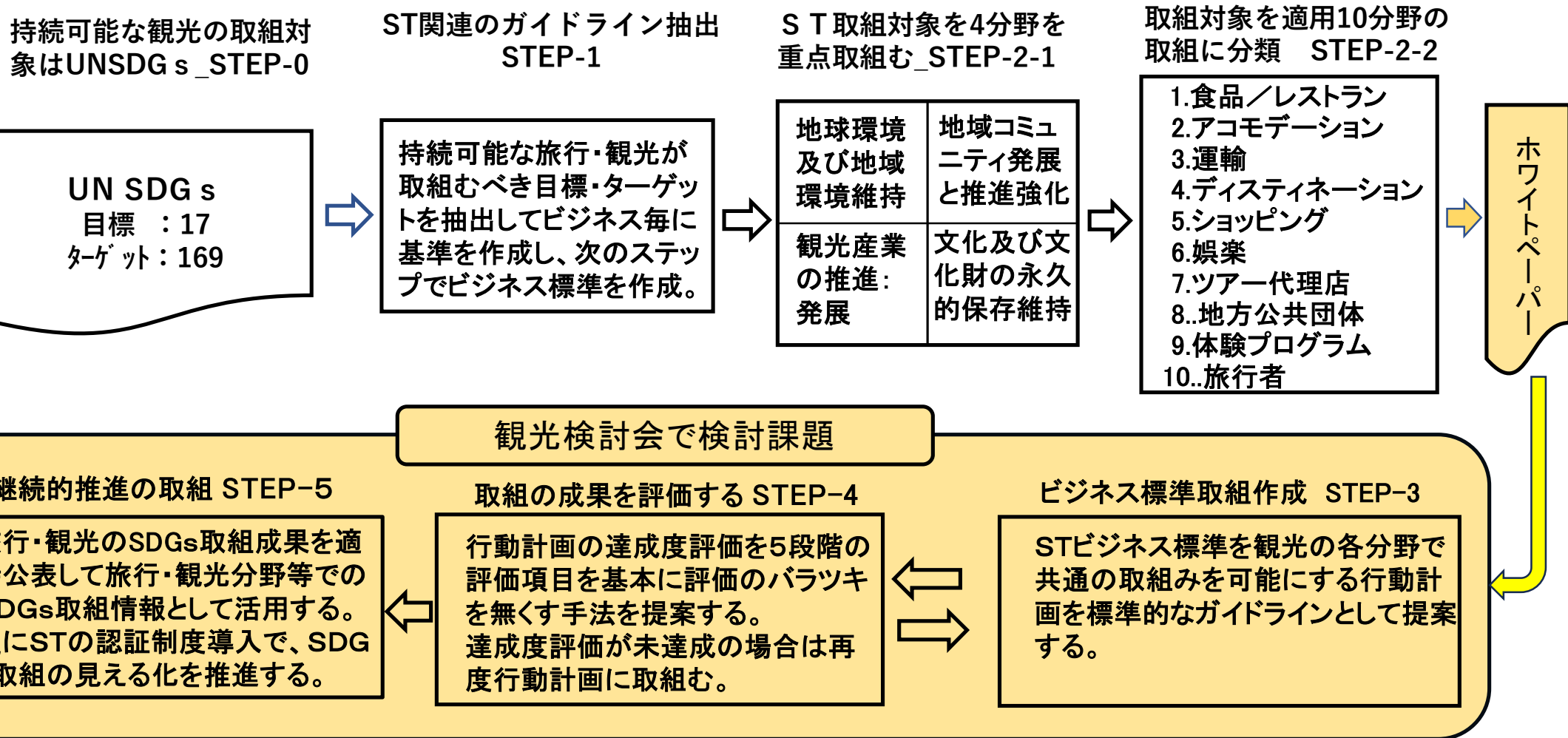


図-2 持続可能な観光のビジネス標準と取組の流れ

7. UNSDGs_ビジネス標準取組のシステムアプローチについて(案)

工程	工程取組の骨子	アプローチ検討項目	アプローチ手法（検討）
STEP 3	観光事業担当者は、SDGs取組の重点事項を優先的に取組むほか持続可能な観光のビジネス標準を具体的に実行する取組を定めるステップである。ビジネス標準達成の行動ポイント定め具体的に行動すべきことをリスト化して取組む。	<ul style="list-style-type: none"> ①SDGs重点事項の確認、アプローチ方法を示す。 ②取組計画を作成して取組目標値を設定する。取組計画は標準化する。 ③ビジネス基準行動リストはパターン化して取組の共通化を念頭にパターン化を検討する。 	
STEP 4	ビジネス基準取組の達成度を5段階の評価項目と行動取組状況を対比して達成度を評価する。未達成の場合はその要因を調査し再度行動リストを作成して再度取組む。	<ul style="list-style-type: none"> ①5段階の達成度評価手法の標準化提案。 ②ビジネス標準毎の評価基準を予め定め5段階の評価項目との関連付ける。 ③評価結果の共有化に向け評価記載のバラツキを無くす手法を検討する。 	観光検討会でアプローチ手法を検討する
STEP 5	ビジネス標準の取組状況の結果情報を公表して旅行者・観光事業者双方で必要により共有・閲覧できSDGs達成状況が把握できる。 さらにこの情報は取引情報項目として活用して持続化を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ①観光事業者がビジネス標準の取組状況・結果を公表し、推進するための利用方法を検討する。 ② SDGsビジネス標準の情報共有と取引情報への活用等を検討する。 ③ ST認証制度の検討会を立ち上げる。※ 	<p>※ 既存の認証制度と共存して ST 認証制度情報と併せて評価する。 (例: Green Globe、エコツーリズム、バイオツーリズム等の既存との併用を検討)</p>

7-2. ビジネス標準運用に向けた取組提案の事業化推進

- (1) 以上で述べたビジネス標準運用提案を外部の事業者と連携体制で計画・推進する
- (2) 観光業界のST取組のヒアリング調査実施(観光事業者等から取組現状を把握する)
- (3) ST達成度情報共有化を観光・旅行の場で利用する共有化技術を検討する。
- (4) EPs TAとのシステムとのST関連情報のデータの共有・活用のシステム環境を検討する。
- (5) ST認証制度は既に観光・旅行で取り入れられ運用されており、これらの認証制度の評価情報を加味した達成度評価値としての活用を検討する。
(生成AIの利用検討などの技術も視野に活用する)
- (6) 持続可能な観光に関する認証方式として運用の体系化を推進する。

以上

END